

女性の顔魅力は服の評価を変える、男性の顔はそうでもない

新潟大学人文学部の新美亮輔准教授（認知心理学）と同学部心理・人間学主専攻プログラム卒の山田真也氏は、服の魅力を評価するときに服を着ている人の顔の魅力が影響してしまい、しかもその影響は服を着ている人が男性のときに比べ女性のときに大きいことを発見しました。この結果は、評価する人が男性でも女性でも同じでした。

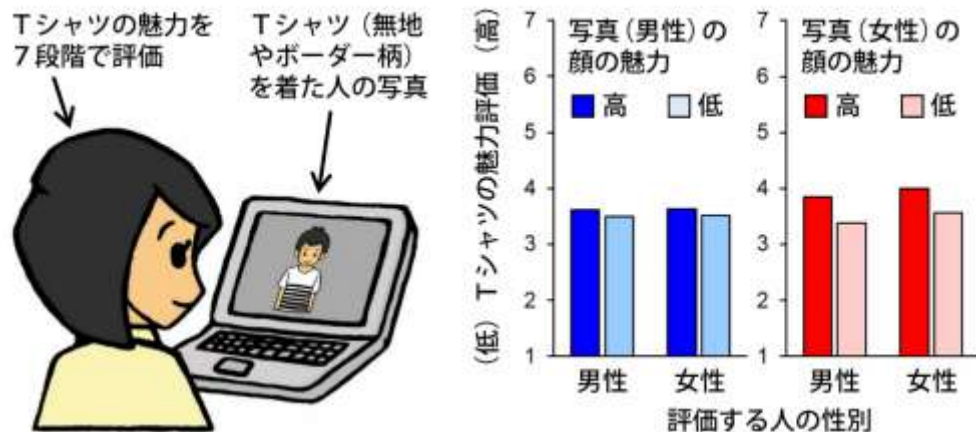
服装が着用者の印象に影響を与えることは知られています。しかし、着用者の顔の印象が服の印象に影響を与えるかはよくわかっていません。魅力的な顔の人が着ていると同じ服でも魅力的に思えるのか、実証的には確かめられていませんでした。魅力ステレオタイプという心理学的現象があり、魅力的な顔の人物は能力やパーソナリティまで良いと評価されてしまいやすいことがわかっています。このような現象が服にまで波及する可能性が考えられました。

また、服の印象についての心理学的研究は、女性の服を検討したものがほとんどで、男性の服の印象については研究が少ないのが現状です。しかし、顔の魅力の心理学的研究では、顔の性別とそれを見る人の性別の組み合わせによって顔の魅力の影響が異なることがあるとわかっています。そこで、仮に顔の魅力が服の魅力評価に影響するならば、その影響の出方は顔の性別と評価する人の性別によって変わるのかを検証しました。

研究の概要

まず事前調査によって、大学生の顔写真（男女）の中から高魅力顔と低魅力顔の写真を複数選出しました。これらの顔写真を、さまざまな色・柄の T シャツ（無地、太いボーダー柄、または細いボーダー柄）の画像に合成し、人物が T シャツを着ている画像を作成しました。

次に、顔と T シャツの合成画像を大学生（男性 30 名・女性 30 名）に 1 枚ずつ見せて、顔ではなく服の魅力を 1 から 7 の 7 段階で評価してもらいました（数値が大きいほど魅力が高い）。各評価者は、男性顔が合成された画像 36 枚と、女性顔が合成された画像 36 枚の、両方を評価しました。直感的な第一印象を答えてもらうため、写真は 1 秒間だけ表示しました。



研究の成果

グラフのとおり、高魅力顔の写真に対するTシャツの魅力評価の平均値は、低魅力顔の写真に対する平均値よりも高くなっていました。つまり、Tシャツ自体は同じでも、高魅力顔が合成されていると、低魅力顔が合成されているときよりも、Tシャツがより魅力的に評価されたことになります。ただし、高魅力顔と低魅力顔の差は、顔が男性のときには(統計的にはゼロではないと言えるものの)とても小さな差でした。これに比べて、顔が女性るときには大きな差がありました。この結果は、評価する人が男性でも女性でも同じでした。

なぜ男性の顔より女性の顔の方は影響が大きいのか、正確な理由はまだわかりません。しかし、評価する人の性別によらず同じ結果だったことなどから、男性の顔の魅力よりも女性の顔の魅力の方が重視される社会規範や、それに基づいた認知の枠組み(ジェンダー・スキーマ)が影響している可能性が考えられます。

論文情報

タイトル 「顔の魅力が服の魅力評価に与える影響とその性差」

雑誌 『心理学研究』

DOI 10.4992/jjpsy.91.19004

日本語原文 <https://www.niigata-u.ac.jp/news/2020/72833/>

文 JST 客観日本編集部